第 11 回 北海道林業・木材産業に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和５年７月２７日（木）
【開催方法】 オンライン会議
【出 席 者】 11 団体・企業
【開催結果】

＜現在の需給状況等＞

（製材生産）

・製材工場(トドマツ、カラマツ、スギ)は需要低迷により、原木消費量が減少し、在荷量は増加。
・需要が低下する中、原木の入荷量や製品生産の調整を行っている工場も出ている。
・乾燥コストや原材料価格が高止まりしており、厳しい工場運営が続いている。
・建築材需要はやや持ち直し気味だが、乾燥設備や加工能力の不足、歩止まりや乾燥コスト等が課題。
・合板の原木需要は、道内でも受入制限をしている状況で、本州メーカーも需要は低調。

（素材生産）

・国有林の素材販売は、7 月期は 7 割程度の落札。山元の請負事業には大きな動きはない。
・民有林では、原木需要が低調な中、造林を中心とした事業や、原料材の出材量が多い山での伐採を実施するなど、需要に合わせながら造材を進めている。

（バイオマス・輸出入）

・素材生産量が減り、相対的に製紙原料やバイオ燃料は原料不足となっており、原料材の価格が高騰。
・バイオマス発電所でも原料が足りない状況であり、積極的な購入が続く見込み。
・輸入製材の価格が下がっており、冬場にかけてさらに下がる見込み。
・中国向けの輸出はスギが圧倒的に多いが、梱包材が動いていない状況。

（需給見通し）

・建築材、産業用資材ともに需要回復は見通せず、現状では年末から年度末までの回復に期待。
・原料材の需給は、輸入チップや古紙の動向により、半年以上掛かると思うが落ち着いてくる見込み。

＜今後の対応方向＞

（原木の安定供給）

・造林も造材も人材確保が厳しい事業体が増加する中、機械化等による省力化の推進はもちろんだが、労働力確保を具体的にどのように進めていくかの検討が必要。
・原木の運搬に中間土場を円滑に活用するためには、林業・木材産業だけではなく、トラック業界など物流も交えた検討や現状設置されている中間土場の分析が必要。
・運輸業界は人手不足の対策が進んでおらず、運転手不足や燃料コスト値上がりへの対応ができないと流通に影響が出ることを懸念。

（道産建築材の安定供給）

・製品価格を維持して、原木価格を維持する必要がある。
・道産木材の利用拡大には、原料の安定供給と生産設備(乾燥設備等)が課題。
・グリーン材（未乾燥材）では売れないので、乾燥施設の整備を進める必要があるが、一定規模にならないと採算が取れないため、各企業が個別に持つのは難しい。
・工場は作業員の人手不足だけではなく、経営側の後継者不足も課題であり、工場と山側が別々に考えるのではなく、業界を挙げた対策を行う必要。

（道産木材の需要拡大）

・建築材の需要先を本州と道内などマルチに見つけていくことが必要。
・道産建築材による非住宅の大型物件の実績を積み重ねながら、利用の働きかけ等の対応をすべき。
・道産材を使う意向のあるプレカット工場がある。道の出先機関からも利用を働きかけてもらいたい。
・小売業でカーボンニュートラルの観点からも地域材活用に興味を持つ企業が増えていることから、建築業者や施主に向けて PR を行うと、効果が大きいと考える。